

劍銘 □國

法量 刃長 180mm 元幅 17.2mm 元重 6.1mm

形状 両鑄造り。古劍としては鑄がさほど高くなく、中程のくびれもなく、表裏に細い鑄樋を掻き流す。

鍛 小板目精良につんで冴え、柁がかる。

刃文 匂い口明るく締まった直刃、僅かに湾れごろがあり、ささやかな銀筋が掛かる。

帽子 鑄筋に向けて中丸風に焼きつめ、僅かに掃き掛ける。

茎 生ぶながら僅かに区を送り、重ねが落ちて先にだけ鑄筋が通る。先浅い栗尻、鑢目不明。下孔は表裏で穿たれて鼓形。

劍(つるぎ)は修験道や密教の祭祀に用いられたもので、不動明王の三鈷柄劍を模(かたど)る。従って諸刃造りには属せず、戦の場でも用いない。

天國への格上を狙ってか上字に孔を掛けて判読できないが、栗田口派の作と極められており、久國、則國、有國、景國、吉國、真國、助國の七工が候補に挙げられる。

